

農業競争力基盤強化特別対策事業（第Ⅴ期パワーアップ事業）の効果

1 事業の概要

目的

- 本道農業の競争力強化を図るため、農業者が必要な農業生産基盤整備に積極的に取り組めるよう、市町村と連携して農家負担を軽減。

期間

- 平成28年度～令和2年度

5か年の実績

- 整備面積 6万7千ha
- 道対策費 36億1千万円

図表1 工種別整備量と整備費用

工種		整備面積 (千ha)	総事業費 (億円)	
			うち道対策費	
区画整理		12.7	936	11.6
土層改良	向上型	7.9	262	5.0
	保全型	2.3	11	0.2
暗渠排水		26.5	701	13.0
排水路		4.6	143	0.5
用水施設	畑地散水型	1.1	19	0.5
	新設型	1.2	32	0.2
	保全型	10.8	164	5.0
計		67.0	2,268	36.1

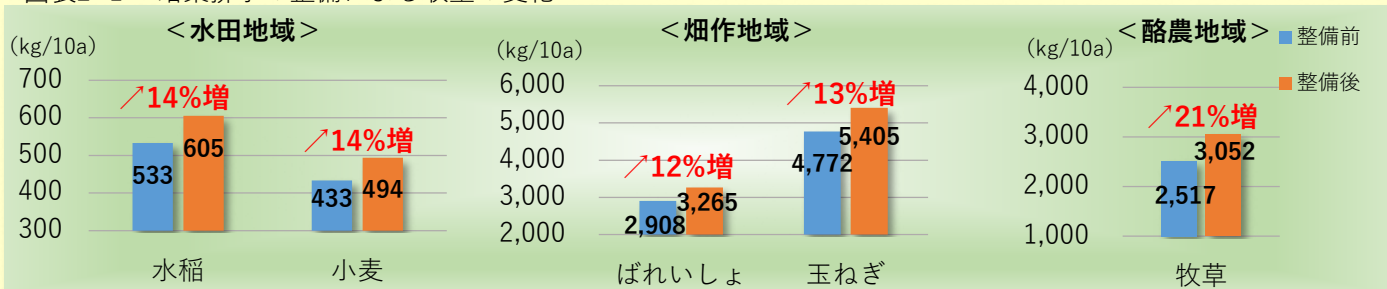
注：四捨五入により合計値が合わない場合がある

2 農業生産への効果

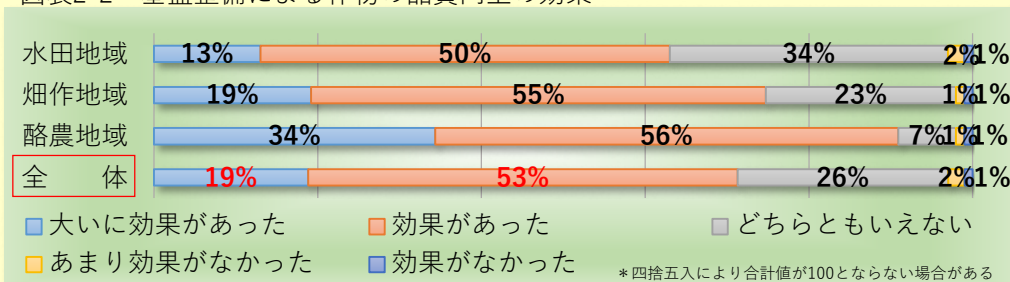
作物生産

- アンケート調査※1の結果により、暗渠排水を実施したほ場では、整備前と比較して**農作物の収量が1～2割向上**したと回答（図表2-1）。
また、基盤整備により**作物の品質向上に効果があったと全体の約7割**が回答（図表2-2）。

図表2-1 暗渠排水の整備による収量の変化



図表2-2 基盤整備による作物の品質向上の効果



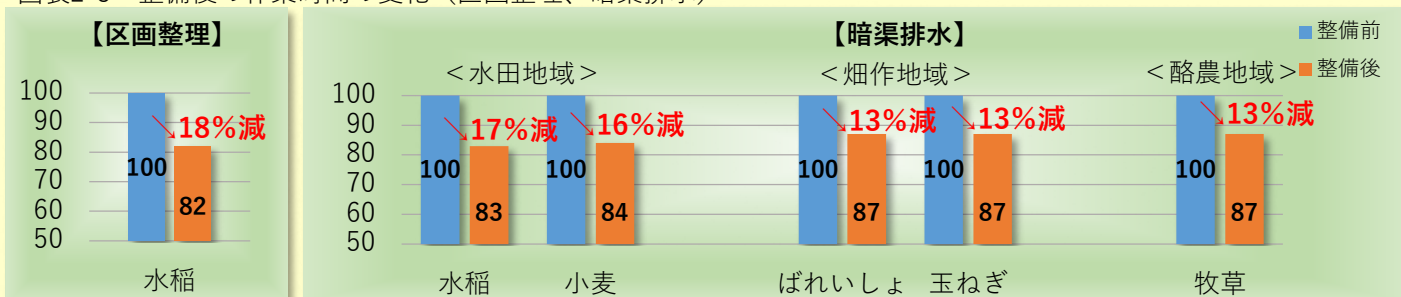
用水施設（畑地かんがい）



作業時間

- アンケート調査の結果により、基盤整備を実施したほ場では、整備前と比較して**作業時間が1～2割短縮**したと回答（図表2-3）。

図表2-3 整備後の作業時間の変化（区画整理、暗渠排水） 注：整備前を100として整備後の作業時間を指数で表示



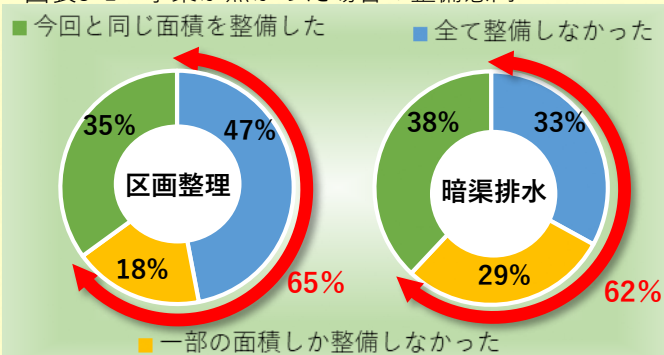
※1：北海道農政部が第Ⅴ期パワーアップ事業を実施した農業者を対象に行ったフォローアップ調査の一つで、2,785戸が回答。

3 農家経済への効果

■ 整備促進効果

- アンケート調査の結果により、**区画整理**では、**事業が無ければ65%の農業者が「全て整備しなかった」**または「**一部の面積しか整備しなかった**」と回答（図表3-1左円）。
- **暗渠排水**では、**事業が無ければ62%の農業者が「全て整備しなかった」**または「**一部の面積しか整備しなかった**」と回答（図表3-1右円）。
- **事業の実施により、区画整理や暗渠排水などの生産基盤の整備が促進。**

図表3-1 事業が無かった場合の整備意向

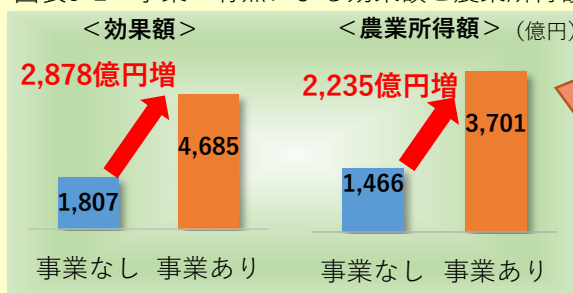


事業が無ければ、約6割の農業者が計画どおり整備を行うことができなかったと回答。

■ 農業所得等への効果※1

- アンケート調査の結果から事業の実施の有無により促進される整備量を推定し、事業完了後40年間における効果額※2及び農業所得額※3を算定。
- **効果額は2,878億円の増加、農業所得額は2,235億円の増加**（図表3-2）。

図表3-2 事業の有無による効果額と農業所得額



事業の実施により農業所得が年間56億円※4増加



整備されたほ場

※1：土地改良事業の費用対効果マニュアルに基づき北海道農政部が算定。
 ※2：作物の収量や品質の向上に伴い増加する生産額や、作業時間の短縮に伴う営農経費の節減額などを合わせた額。

※3：効果額から作物生産に必要な肥料代などの必要経費を除いた額。
 ※4：増加した農業所得額2,235億円を40年で除した額。